

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 藤岡市立美土里小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒375-0052

群馬県藤岡市下大塚222番地

E-mail midori-kyoto@fujioka-school.gunma.jp

Website http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010005

幼児児童生徒数 男子 244名 女子 231名 合計 475名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「つながり」を活動テーマとして、ESD教育を自他や社会を見つめ、自他理解、地域理解を深める機会と捉え、ESD教育の実践を通して、自己や他者、地域のよさに気づき、協力しながら進んで活動する態度や能力を育てることを目標とした。

具体的には、「つながりを大切にすること」を柱に、①人とのつながりに係わる活動、②教科や学年のつながりを意識した教育、③地域・歴史とのつながりに係わる学習を推進した。

① 人とのつながりに係わる活動

自分は様々な人々とつながっており、そのつながりが自分をつくっていることを意識できる活動に取り組んだ。年少者とのつながりを意識した「園児とのふれあい学習」、中学生と共に活動した「小中合同あいさつ運動」「小中合同クリーン作戦」、年配者とのふれあう「社会施設訪問」等を行った。

② 教科や学年のつながりを意識した教育

教師が教科間や学年間のつながりを意識した授業を実践することで、児童がこれまでの学びを生かし、「できた」「わかった」を実感し、達成感や自己有用感を感じられるようにした。また、小中一貫の系統表を作成することで、6年間だけではなく、9年間の学びのつながりを教師が意識したことで、児童が学習内容のつながりを感じ取り、主体的に学習に取り組めるようにした。

③ 地域・歴史とのつながりに係わる学習

当校校区は、昔から養蚕の盛んな地域であり、また、市内には世界文化遺産の一つである「高山社跡」が存在することから、日本の近代産業を支えた養蚕について学習を行った。地域の方を講師として招いたり、実際に見学に出かけたりする学習をとおり、地域・歴史とのつながりを実感するとともに、郷土に誇りを持てるようにした。



①社会福祉施設での年配者とのふれあい活動



①園児とのふれあい活動



①小中合同あいさつ運動



①小中合同クリーン作戦



②学びのつながりを意識した授業



③高山社学

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

ユネスコスクールとしての活動テーマ「つながり」を学校全体としての教育構想の中に位置づけ、全ての教育活動で意識化を図るとともに、各教科等の学習で9カ年のつながりを意識した単元構成を工夫した。特に、課題解決的な学習に重点を置き、体験活動をトピック的に扱うのではなく、学習過程における課題設定のための体験活動や、まとめの段階での活動として位置づけるよう心がけた。

また、単元全体のねらいを達成するための活動である、という意識を児童に持たせるため、単元全体の学習の流れを視覚等で把握できるよう工夫した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

それぞれの学年で単発的に活動に取り組むのではなく、学校全体で取り組む意識を向上させるため、教科等の部会の活性化を図った。校内研修を今までの学年部会ではなく、教科等の部会を中心としたものに変更したり、職員会議等で教科等の主任が発言する機会を設けたりするなどの取組を行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

活動が終わるごとに、中心となった学年で話し合い、今後の課題や成果について話し合った。その後、必要に応じて部会や学校全体で課題や成果を共有し、今後の方針について話し合う場面を設けた。

今年度は児童の変容を中心に話し合ったので、今後は活動そのものについての振り返りや、外部からの評価を取り入れるなどの工夫をしていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

活動成果の発信においては、学校 web ページを活用した。本校では、教育活動の様子を素早く、広く発信するため学校 web ページを積極的に活用しており、ユネスコスクールとしての活動も発信している。素早く、小まめに発信することにより、保護者や地域の方々から感想をいただいたり、ご意見をいただいたりした。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

本校は、コミュニティスクールとなることを目指しており、地域の方々の声を生かした学校運営を進め始めた。今後はどのようにして、地域と協働して学校運営を進めるかを探っていきたい。地域以外の団体との交流等は進んでいないので、今後はネットワーク化を進めていきたい。そのためには、どのような方法があるのか情報収集に努めたい。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

市内の各ユネスコスクールとは、特に中学校区では情報を共有したり、交換したりするなど交流を密にすることができた。一方、市外のユネスコスクールとの交流やネットワークの形成は進んでおらず、今後の課題である。交流・ネットワークの形成のよさについて校内で研修するとともに、先進的な取組を始めた市内のユネスコスクールから情報を収集したい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

「つながり」を教師も子どもも意識することができたことが、最大の効果である。特に教師が視野を広げ、様々な場面で様々なものや人とのつながりを意識したことにより、今までと同じ活動であっても、児童の変容が大きなものになった気がする。児童の自己有用感の向上は、児童アンケートの結果にも現れており、大きな効果といえる。

（3）平成 30 年度の活動計画

平成 30 年度は、今年度取り組んだテーマ「つながり」の継続と発展を目指す。中でも、平成 30 年度は「地域とのつながり」を意識して活動に取り組みたい。具体的には、低学年は「身近な地域の理解」を体験的な活動をとおして進め、中学年からの「地域の文化の理解」へとつなげる。その後、高学年は「地域の歴史の理解」を進めていく。

このことにより、自分の住む地域に対して愛着と誇りを持ち、よりよい生き方を目指す児童を育てたい。そのためには、「人とのつながり」による自他理解や「教科や学年のつながり」による主体的な学習への取組も重要となるので、力を注ぎたい。